

APRU2013 災害シンポジウムにおいて講演しました(2013/10/29)

場所：国立台湾大学会議場（台北）

テーマ：「わが国における災害保健医療コーディネーターの養成」

10月29日（火）にAPRU 2013において江川新一教授が講演を行いました。APRUがさまざまな学術分野においてシンポジウムを行っていますが、Multi-hazard programは東北大学災害科学国際研究所(IRIDeS)が中心となって3年の連続企画として行うものです。今回、はじめて学生に対してポスター優秀賞が設けられ、参加各大学の大学院生たちが熱心に取り組んでいました。また、会議は2日間のなかで1日目は招待講演、2日目に分科会となり、江川新一教授が災害と健康のセッションにて「わが国における災害保健医療コーディネーターの養成」というテーマで講演を行いました。国立台湾大学の救命救急センター医師や麻酔科の医師が座長で、災害医療に対応する医療従事者と一般の医療従事者のギャップを埋めるにはどうしたらよいか、自衛隊の医療従事者の役割はどうだったか、どうあるべきかなどの活発な議論がなされました。

台北市の災害時医療の需要と供給のシミュレーションを行っている研究者、ニュージーランド

同じセッションでは、災害時におけるメンタルヘルス、災害対応をすすめるかどうかの個人の行動をひきおこす要因の分析、四川大地震をフィールドとして災害時に子供を失った親の精神的問題、復興における法律の役割、石巻の復興における被災地の子供たちの関与が子供たちならびに地域社会に与える影響(IRIDeSとの共同研究)などまさに学際的な話題が提供され、いずれも活発な議論がなされました。IRISDeSが中心となって、世界の

災害研の小野裕一教授、泉貴子准教授が特別セッションとしてAPRUの概要と3年計画でのmulti-hazards programの概要、今後の方向性についてワークショップが開催され、ポスター評価の在り方や、会議の成功と将来への期待が話し合われました。APRUには新しくヨンセイ大学、ハワイ大学マノア校、サウスウェールズ大学の3校が新たに加盟し、Multi-hazards programは来年11月最終週にチリ大学にて開催される予定です。



APRUで発表する江川新一教授



全参加者

文責：江川新一（災害医学研究部門）